



■ テーマ名 地域住民主体の地域経済活性化 物流、交通の将来

■ キーワード
交通、物流、地域経済

■ 研究の概要

人口減少がすすむ現代において、地方をどのように成り立たせれば良いかは喫緊の課題である。基本的なスタンスとしては、「地方の自立」であって、国に頼ることなく、創造性をもって、地方が独自に財源を確保するとともに、地域内での経済循環をつくらなければならないということになる。これは大変難しい課題であるが、歴史を振り返れば、地方の人口は今よりもっと少なかったにもかかわらず、地域経済を発展させようとする姿勢が見られた時期があった。国からの補助金が充実していたとは言え、活動の中心となったのは地域住民たちであった。歴史の教訓、あるいは歴史の蓄積を前提とした地域住民主体の地域経済活性化の方法を考える。

交通・物流は、今後の将来が大いに期待される分野であるにもかかわらず、その成長を阻む「規制」と「低い生産性」に課題がある。そうした現状は、歴史の積み重ねの上に成り立っており、今日主体となっている自動車輸送も、それが確立されるまでには、鉄道輸送との競争と協調の関係を繰り広げた歴史があった。そうした点を見過ごしては、安易な規制緩和や生産性向上の方法をすすめることによって、かえって混乱を引き起こす恐れがある。Maas や CASE がすすむ交通・物流の将来を的確に見据えるためにも歴史的視角は効果的であると考ええる。

■ 他の研究／技術との相違点

フィールドワークと資料調査を基本とした歴史分析からの提言

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

地方自治体との実務的な協力関係の構築
交通・物流の新しい展開についての実務的な協力関係の構築

■ 関連業績（特許・文献）

関谷次博著『費用負担の経済学』学文社、2014年
関谷次博著『物流発展と生産性』晃洋書房、2019年
関谷次博著「鉄道イベントの意義 ―神戸電鉄の事例から考える」(『鉄道ジャーナル』2017年10月号)

■ 研究者から一言

私自身の研究のみならず、ゼミ学生との関わりを持ちたい方も是非ご連絡ください。私のゼミでは、これまでも、地方自治体、企業、NPO、高校など多数の関わりをもってきました。